

2025年7月25日

2025年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

産業景気は横ばいだが、米国関税で下振れ懸念

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、6月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

○県内産業の現況（2025年4～6月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「建設」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種、『低調』が「住宅」の1業種だった。

○『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

○2025年7～9月期の見通しについては、引き続き『好調』が1業種、『順調』が2業種、『普通』が11業種、『低調』が1業種となる見通し。

○引き続き省力化・デジタル化投資が活発で、関連業種が底支えされるとともに、消費関連業種は、賃上げやボーナス増の動きを受けて底堅く推移している。ただし、輸出型製造業では、米国の追加関税によるマイナス影響が顕在化してくるとみられ、先行きには不透明感が漂う。

○本調査と同時に実施したアンケート調査によれば、今夏のボーナス支給状況を尋ねたところ、前年より「増加」させると回答した企業が50.4%と半数を超えた。

業種	業界天気 現況 (4-6月)	見通し (7-9月)
製紙		→
食品・飲料		→
工作機械		→
民生用電器部品		→
自動車部品		→
二輪車部品		→
建設		→
住宅		→
大型小売店		→
自動車販売		→
物流		→
情報サービス		→
人材派遣		→
観光・レジャー		→
外食		→

※本件のお問合せ先 田原

〈8月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2025年7月）」

産業景気は横ばいだが、米国関税で下振れ懸念

業界景気の現況（2025年4～6月期）

県内産業の現況（2025年4～6月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「建設」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種、『低調』が「住宅」の1業種、『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2025年7～9月期）

7～9月期の見通しについては、引き続き『不調』の業種はなく、『好調』が1業種、『順調』が2業種、『普通』が11業種、『低調』が1業種となる見通し。引き続き省力化・デジタル化投資が活発で、関連業種が底支えされるとともに、消費関連業種は、賃上げやボーナス増の動きを受けて底堅く推移している。ただし、輸出型製造業では、米国の追加関税によるマイナス影響が顕在化してくるとみられ、先行きには不透明感が漂う。

業種ごとにみると、製造業では、業務用エアコンの海外生産シフトが見込まれるも猛暑予想で家庭用の出荷増が期待される「民生用電器部品」は『順調』の見通し。「自動車部品」は、ケイレッツにより濃淡はあるものの、全体としては『普通』で推移する。輸出ウエートの高い「工作機械」や「二輪車部品」では、米国の追加関税の影響を危惧し、『普通』の見通しは変わらず。業務用需要が堅調な「製紙」、飲料缶が堅調な「食品・飲料」も『普通』のまま推移する。

非製造業では、システム更改などのデジタル需要を取り込む「情報サービス」が『好調』、流域治水工事や物流施設などの新設が活発な「建設」が『順調』を維持する見通し。前年の災害備蓄用特需の反動はあるが単価上昇が売上に寄与する「大型小売店」、新車投入により買替え需要を喚起し販売増が見込まれる「自動車販売」、消費財の荷動きが底堅い「物流」、製造業の需要は減少するも観光、飲食業への派遣が堅調な「人材派遣」、物価高や万博の誘客が県内にとってマイナスとなるもインバウンドが好調な「観光・レジャー」、自治体の消費喚起策に期待が高まる「外食」は、引き続き『普通』の見通し。「住宅」については、戸建て住宅で前年度末までの駆け込み着工の影響が残り、見通しは『低調』のまま推移する見込み。

2025年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業 種	業 界 天 気		売 上 高 (前年同期比伸び率)	主 要 産 業 の 見 通 し
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)		
製 紙		→ 	➔	業務用需要は堅調だが、節約志向広がり 家庭用需要が停滞
食 品 ・ 飲 料		→ 	➔	飲料缶の需要底堅く、売上高は上向き
工 作 機 械		→ 	➔	設備需要は底堅いが、米国の追加関税で 暗雲が漂う
民生用電器部品		→ 	➡	全国的に猛暑が見込まれ、受注量は前年 実績を確保
自 動 車 部 品		→ 	➡	ケイレッツにより濃淡、県内部品生産は前 年を下回る
二 輪 車 部 品		→ 	➡	大型車需要に一服感、米国関税の影響が 顕在化する懸念
建 設		→ 	➡	流域治水工事や物流施設などの建設工事 が引き続き好調
住 宅		→ 	➡	集合住宅の需要は底堅いものの、戸建て 住宅は低調
大 型 小 売 店		→ 	➡	前年の災害備蓄用特需の反動で、前年を やや下回る
自 動 車 販 売		→ 	➤	新車投入により買替え需要を喚起
物 流		→ 	➡	消費財の荷動き底堅く、前年並みの水準は 確保
情 報 サ ー ビ ス		→ 	➔	システム更改の需要を取り込み、売上高 は堅調に推移
人 材 派 遣		→ 	➡	輸送用機器を中心に、製造業で派遣需要 が減少
観 光 ・ レ ジ ャ ー		→ 	➡	物価高と万博、酷暑が下押し要因に
外 食		→ 	➔	自治体の消費喚起策に期待高まるも、収 益見通しは依然慎重

表の見方

業 界 天 気				売 上 高	
	好 調		低 調	➤	非常に増加(+10%以上)
	順 調		不 調	➔	増 加 (+3~+9%)
	普 通			➡	横 ば い (+2~△2%)
				➡	減 少 (△3~△9%)
				➤	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2022年		2023年				2024年				2025年	
四半期	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ
対象月 (○は調査月)	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥
全業種の平均階級値	2.80	2.93	2.93	3.00	3.13	3.07	3.07	3.07	3.20	3.20	3.33	3.20
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
業 種 数	好調	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	順調	2	2	3	4	3	2	2	2	3	3	2
	普通	5	7	8	7	11	12	12	12	12	12	11
	低調	7	5	4	4	1	1	1	1	0	0	1
	不調	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4~6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7~9月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
 調査時点…2025年6月上旬
 回答企業…県内主要15業種(141社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製 紙

業務用需要は堅調だが、節約志向広がり家庭用需要が停滞

【現況】

【見通し】

【7-9月期売上高】
前年同期比 4-6月期比

現況

【4-6月期】家庭紙の生産量は、好調なインバウンドによる業務用需要の増加により、前年並みの水準を維持したが、消費者の節約志向により、低水準であった前年並みにとどまった。

見通し

【7-9月期】家庭紙の生産量は、業務用需要が堅調なことから前年並みの高水準が見込まれるが、食品などの値上がりを受け、家庭紙の需要は低下する懸念もあつた。業務用需要は、低調な食品向け需要を背景に前年を下回りそうである。なお、売上高は値上げにより前年比増の見通し。

国内紙・板紙生産量(前年比)

注：2025年5月は速報値。(四半期)
資料：経済産業省

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.5ヵ月

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	ヵ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製紙 業務用需要は堅調だが、節約志向広がり家庭用需要が停滞

【現況】



↓

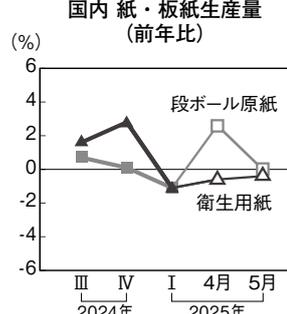
【見通し】



【4-6月期】 家庭紙の生産量は、好調なインバウンドによる業務用需要の高まりを背景とした増勢は一巡したものの、前年並みの高水準が続いた。段ボール原紙は、消費者の節約志向の影響で主力の食品向けを中心に、低水準であった前年並みにとどまった。

【7-9月期】 家庭紙の生産量は、業務用需要が堅調なことから前年並みの高水準が見込まれるが、食品などの値上がりを受け、消費者の節約志向が家庭用需要を下押しする懸念も強まっている。段ボール原紙の生産量は、低調な食品向け需要を背景に前年を下回りそうである。なお、売上高は値上げにより前年比増の見通し。

国内紙・板紙生産量 (前年比)



注：2025年5月は速報値。(四半期)
資料：経済産業省

前年同期比	4-6月期比					
→	→	→	→	→	→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.5ヵ月

食品・飲料/製茶 飲料缶の需要底堅く、売上高は上向き

【現況】



↓

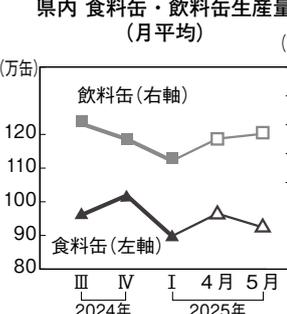
【見通し】



【4-6月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、前年をわずかながら上回った。節約志向の高まりで主力のツナ缶を中心に需要が堅調。飲料缶類の生産量は、受注が低調で前年を下回った模様。**製茶**：茶商の売上高は、リーフ茶需要の低迷で前年をやや下回った。

【7-9月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みで推移する見通し。主力のツナ缶の需要が底堅く、生産量は前年水準を維持する模様。飲料缶類の生産量は、夏場の猛暑で需要が上向き、前年を上回る見込み。**製茶**：茶商の売上高は、前年を下回る見通し。荒茶価格の高騰で、収益の悪化が懸念される。

県内食料缶・飲料缶生産量 (月平均)



資料：(一社)静岡缶詰協会

前年同期比	4-6月期比					
→	→	→	→	→	→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

工作機械 設備需要は底堅いが、米国の追加関税で暗雲が漂う

【現況】



↓

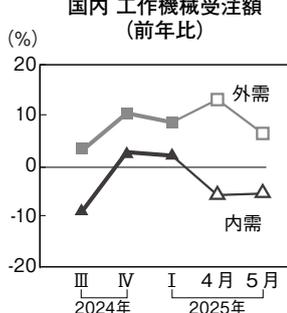
【見通し】



【4-6月期】 全国の受注額は、前年をやや上回った模様。外需は、大規模設備の更新と消費財の買替えを推進する「両新」政策を拡大する中国市場がけん引し、好調に推移した。内需は、県内業界のメインユーザーとなる自動車産業が低調で、3四半期ぶりに前年を下回った。

【7-9月期】 全国の受注額は、やや低水準だった前年を上回って推移する見通し。デジタルやグリーン、レジリエンス関連の設備需要は底堅い。ただし、米トランプ政権の関税措置の影響が注視される。対米輸出の低迷のほか、世界経済の減速や企業収益の悪化を受けた設備投資の様子見・先送りが顕在化する懸念がある。

国内工作機械受注額 (前年比)



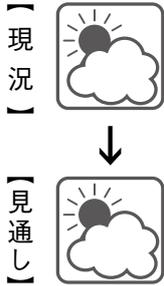
資料：(一社)日本工作機械工業会

前年同期比	4-6月期比					
→	→	→	→	→	→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~10.0ヵ月

民生用電器部品

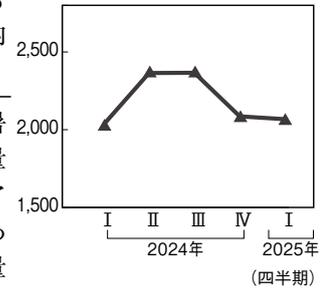
全国的に猛暑が見込まれ、受注量は前年実績を確保



【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は前年をやや上回った。6月から全国的に気温の高い日が続き、前倒して商戦が盛り上がった。また、業務用エアコンも国内向けが堅調で、前年を上回った。こうした中、県内部品メーカーの受注量は前年をやや上回った模様。

【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、猛暑が見込まれることから、在庫過多を回避するため生産量をやや抑制した前年を上回る見通し。一方、業務用エアコンは、北米向け輸出を海外生産にシフトする計画があり、前年を下回る見込み。県内部品メーカーの受注量は、前年並みで推移する模様。

国内 家庭用電気機器出荷額 (月平均) (億円)



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	横ばい	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

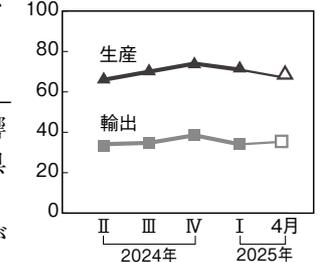
ケイレツにより濃淡、県内部品生産は前年を下回る



【4-6月期】全国の自動車生産台数は、前年比+5%のプラスとなった。スズキは中国によるレアアース規制の影響で減産、ホンダ・日産も低調に推移したものの、トヨタなどでは前年の認証不正問題から反動増となった。県内の部品受注は全体として前年をやや下回った。

【7-9月期】全国の自動車生産台数は、認証不正の影響で低水準だった前年を+5%程度上回るとみられる。県内部品メーカーでは、スズキの挽回生産を期待するが、日産やホンダの国内生産では、米国の追加関税の影響が懸念され、全体では前年を下回る水準で推移しそうである。

国内 自動車生産・輸出台数 (月平均) (万台)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	上昇	0.5~3.0ヵ月

二輪車部品

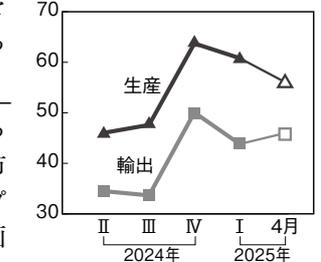
大型車需要に一服感、米国関税の影響が顕在化する懸念



【4-6月期】全国の完成車生産台数は前年をわずかに下回った。スポーツタイプの大型車が好調であったものの、その他の車種の生産が伸び悩んだ。トランプ関税を見越した駆け込み出荷もみられたが、全体を押し上げるには至らず、部品メーカーの受注量は前年を下回った。

【7-9月期】全国の完成車生産台数は前年をやや下回る見通し。新型車の投入に期待がかかるも、欧州・北米市場では需要に一服感が生じており、加えて米国トランプ関税の影響により、夏以降は完成車メーカーの生産計画の見直しが想定される。これに伴い、部品メーカーの生産量は前年を下回る見通し。

国内 二輪車生産・輸出台数 (月平均) (千台)



資料：(一社)日本自動車工業会

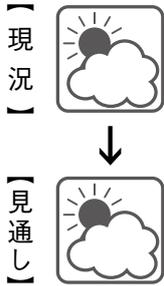
【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



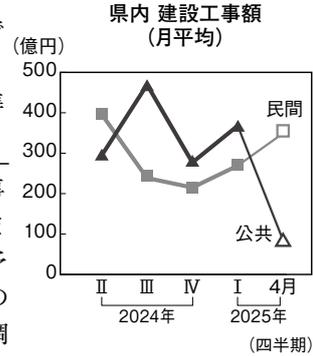
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.1~1.0ヵ月

建設 流域治水工事や物流施設などの建設工事が引き続き好調



【4-6月期】県内の公共工事契約高は、交通インフラの修繕や学校施設等の設備工事需要が堅調で、前年並みで推移した模様。民間の工事費予定額は、運輸業や飲食・宿泊業等で着工件数が伸びたものの、製造業は前年水準に届かず、全体では前年をやや下回って推移した。

【7-9月期】県内の公共工事契約高は、流域治水の工事や、清水港をはじめとした港湾整備工事の発注が見込まれ、前年並みの水準で推移する見通し。民間の工事費予定額も、冷凍倉庫などの物流施設のほか、インバウンドの増加を受け、観光地を中心にホテルなどの改修需要が堅調で、好調を維持する見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



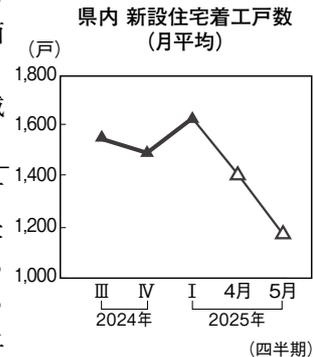
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	需要超過	—	上昇	上昇	6.0~18.0ヵ月

住宅 集合住宅の需要は底堅いものの、戸建て住宅は低調



【4-6月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回った模様。4月の改正建築物省エネ法・建築基準法の全面施行を見越して3月以前に住宅着工を前倒しにする動きがみられ、その反動により戸建て住宅の着工戸数は減少。賃貸や分譲も、前年水準に届かなかった。

【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回って推移する見通し。マンションやアパートといった集合住宅の需要は底堅いが、ボリュームゾーンを占める戸建て住宅は駆け込み着工の影響が残り、前年を下回る見通し。造成工事に使用される生コンなど資材価格が上昇傾向にあり、収益環境は厳しい状況が続く。



資料：国土交通省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



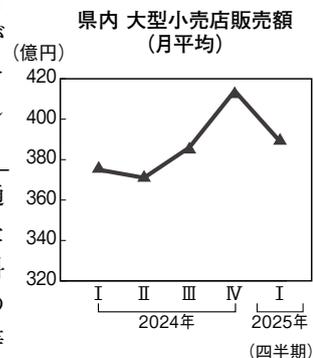
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	3.0~12.0ヵ月

大型小売店 前年の災害備蓄用特需の反動で、前年をやや下回る



【4-6月期】県内の総販売額は前年を上回った模様。百貨店は、飲食料品が堅調だったものの、主力の衣料品が伸び悩み、販売額は前年をやや下回った。総合スーパーでは、米などの価格上昇や総菜の好調が売上増に寄与したほか、6月は猛暑対策の商材も好調だった。

【7-9月期】県内の総販売額は前年をやや下回る見通し。百貨店の販売額は悪天候で来客数が振るわなかった前年を上回る見通し。総合スーパーの販売額は、飲食料品の価格上昇が押し上げ要因となるものの、前年8月の南海トラフ地震臨時情報発令で発生した飲料水や缶詰等の備蓄用特需の反動で、前年をやや下回るとみられる。



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

自動車販売

新車投入により買替え需要を喚起

【現況】

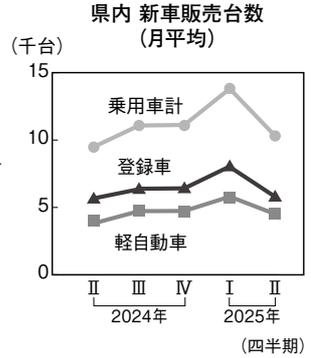


【見通し】



【4-6月期】県内の新車販売台数は前年比+8.6%と伸長した。前年の認証不正問題による落込みからの反動が要因。ただし、部品不足で供給が滞った車種があったほか、人気車種は増産体制が間に合わないなど、需要に応えられない車種も散見された。

【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年を+15%ほど上回る見通し。買替え需要は底堅く、登録車は微増、軽自動車では2割近いプラスを見込む。ダイハツが11年ぶりに軽の人気車種を全面改良し販売を本格化するほか、他メーカーも安全装備などの一部改良車を投入し、販売増を見込む。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

↑	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	過少	上昇	上昇	1.0~10.0ヵ月

物流

消費財の荷動き底堅く、前年並みの水準は確保

【現況】

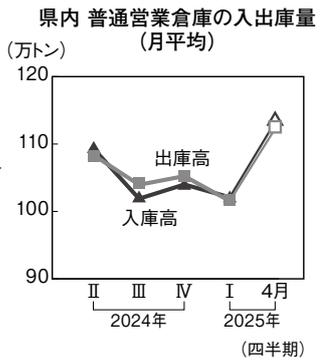


【見通し】



【4-6月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移した模様。主力の紙・パルプや食料品などが堅調に推移した一方、輸送用機器が伸び悩んだ。普通倉庫の入出庫高は、主力の電気機械、紙・パルプ、飲料の荷動きが底堅く、前年を+5%程度上回った。

【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準を確保するとみられる。米国トランプ関税の影響に左右される輸送用機器で鈍化懸念あるも、飲料や食品などの消費財は底堅く推移する模様。普通倉庫の入出庫高は、天候にもよるが、飲料や電気機械の荷動きに期待がかかり、前年並みの水準で推移する見通し。



資料：静岡県倉庫協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	横ばい	上昇	—

情報サービス

システム更改の需要を取り込み、売上高は堅調に推移

【現況】

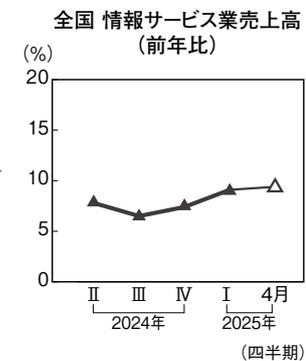


【見通し】



【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年を上回って推移した。主力の受託開発ソフトウェアが売上増に寄与。県内でも、自治体や民間企業の旺盛なIT投資や、基幹システム更改の需要を取り込み、収益を伸ばした企業が多くみられた。

【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。県内では、経済産業省が警鐘を鳴らす「2025年の崖」問題への対応が活発化しそうである。企業の基幹システムの老朽化や複雑化への対応策として、システム更改需要や「Windows10」サポート終了前のPC入替需要拡大が見込まれる。



資料：総務省「サービス産業動態統計調査」

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
89~80%	均衡	—	—	上昇	1.0~3.0ヵ月

人材派遣

輸送用機器を中心に、製造業で派遣需要が減少

【現況】



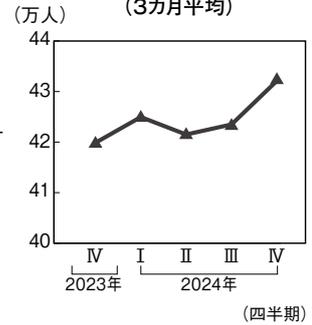
【見通し】



【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年並みの水準で推移した模様。事務職や観光、飲食業は底堅く推移した一方、製造業はトランプ関税の影響を受け、6月頃から輸送用機器を中心に派遣需要が減少したとみられる。自治体向けは、例年並みで推移した。

【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや下回って推移する見込み。観光や飲食業は一定の需要があるものの、メインの事務職はDXや業務効率化の進展を受けて減少傾向。製造業は、とくに輸出向けの先行きが見通しにくい中で、輸送用機器を中心に需要の減少が続くと予想される。

全国 派遣社員の実稼働者数
(3カ月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

物価高と万博、酷暑が下押し要因に

【現況】



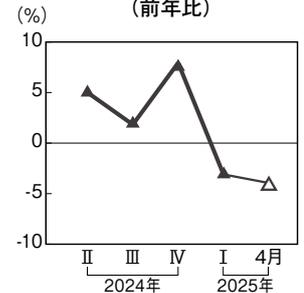
【見通し】



【4-6月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を若干上回った模様。宿泊単価が上昇基調にあるほか、インバウンドも好調だったものの、物価高による節約志向の高まりや、大阪・関西万博の影響もあってか、国内旅行者の延べ宿泊者数は前年を下回ったとみられる。

【7-9月期】県内主要旅館の売上高は、前年をやや下回る見通し。インバウンドは好調を維持するとみられるが、物価高と万博の影響に加え、酷暑が海水浴などマリナーレジャーの客足を鈍らせ、国内客が伸び悩む見通し。米をはじめとした食材費の高止まりや人件費の上昇で、収益環境も厳しさを増すとみられる。

県内 宿泊者数
(前年比)



資料：観光庁

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

外食

自治体の消費喚起策に期待高まるも、収益見通しは依然慎重

【現況】



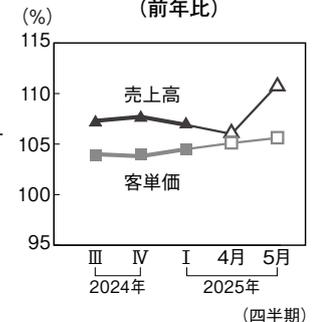
【見通し】



【4-6月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、値上げによる客単価の上昇を主因に前年を上回った。週末やハレの日を中心に期間限定商品などの高単価メニューの売れ行きが堅調で客単価の上昇につながったほか、前年よりも雨天が少なかったことで客足も伸びた。

【7-9月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、値上げ効果から前年を上回る見通し。県内飲食店では、多くの自治体が発行するプレミアム商品券による押し上げ効果を期待する声も聞かれる。ただし、米をはじめとした食材価格は高止まりしており、収益面は予断を許さない状況が続く。

全国 外食売上高・客単価
(前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

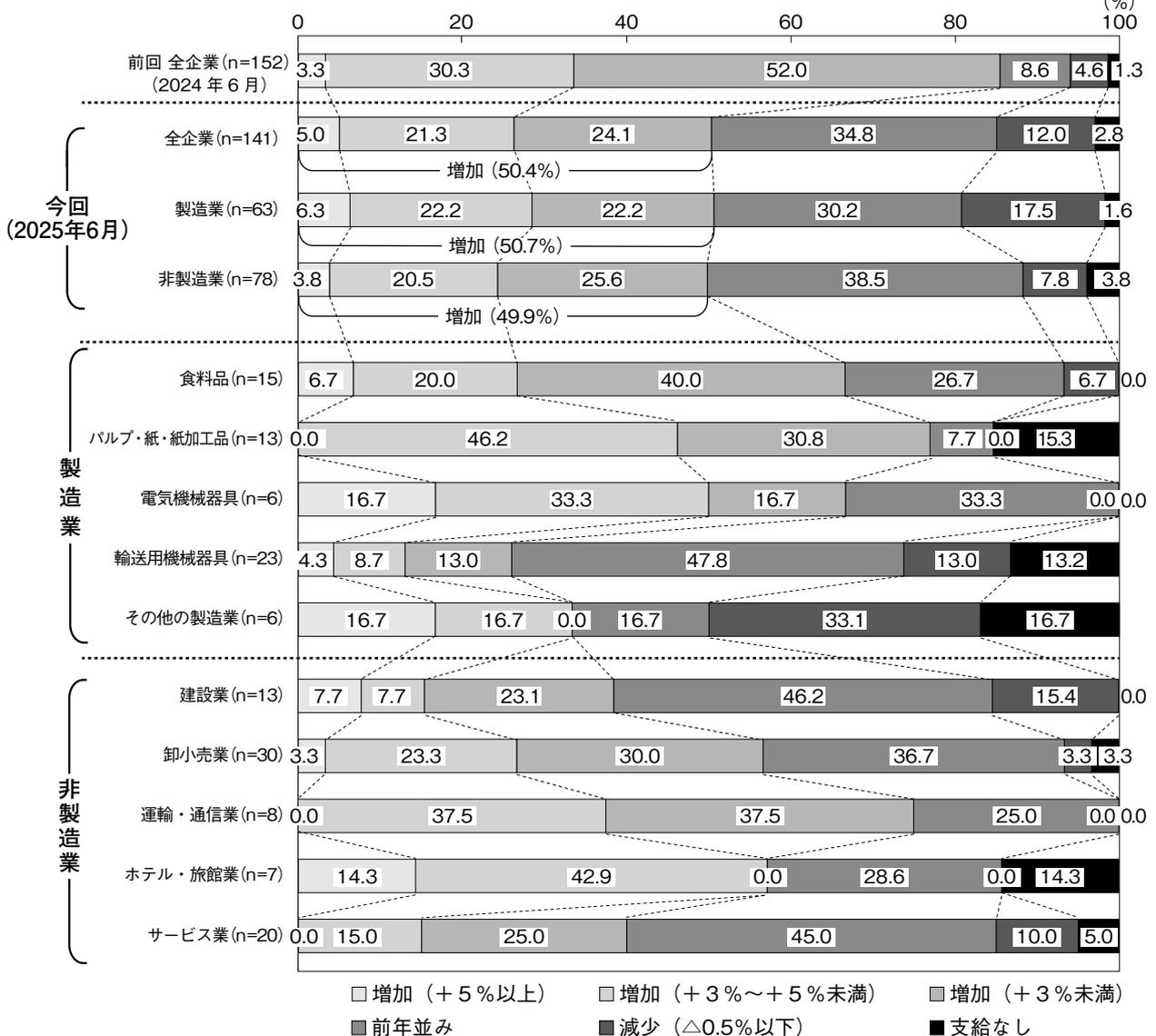
特別調査 夏のボーナス支給状況

製造業・非製造業ともに半数の企業が“増加”回答

県内企業に、今夏のボーナス支給について尋ねたところ、前年より「増加」させると回答した企業が50.4%と半数を超えた。前年調査（増加：計85.6%）に比べると増加企業の割合は低下したが、物価高や人手不足が続く中、総じてボーナス引上げの基調は維持している。

業種別では、製造業、非製造業ともに「増加」が半数前後を占めるが、製造業では「減少」との企業も17.5%とやや多い。詳しくみると、パルプ・紙・紙加工品（77.0%）や食料品（66.7%）、電気機械器具（66.7%）では「増加」が多い一方、輸送用機械器具は半数近くが「前年並み」とどまった。非製造業では、運輸・通信（75.0%）で「増加」が4分の3を占めたが、建設業やサービス業では、「前年並み」との回答が最も多い。

図表 今夏のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2025年6月、調査対象企業580社、回答社数141社、有効回答率24.3%